

LGBTQの歴史をたどる史料集 “Archives of Sexuality and Gender”

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学図書館 公開日: 2022-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 兼子, 歩 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22429

LGBTQ の歴史をたどる史料集 “Archives of Sexuality and Gender”

兼子 歩*

1969年6月28日、ニューヨーク市グリニッジヴィレッジのゲイバー「ストーンウォール・イン (Stonewall Inn)」に対する警察の強制捜査に抵抗した客たちが店内に立て籠もった、いわゆる「ストーンウォールの反乱 (Stonewall Rebellion)」は、アメリカをはじめとする世界各国のゲイ・レズビアン解放運動 (Gay and Lesbian Liberation Movement) の重要な契機として記憶されている。翌1970年、ストーンウォール反乱1周年を記念して「ゲイ解放戦線 (Gay Liberation Front)」が挙行したデモ行進は、毎年6月に欧米各国でおこなわれるプライド・パレードとして現在に至っている。日本でも「レインボープライド」という名称で、同様のイベントが行われている。

その後、ゲイ・レズビアンのみならず、ヘテロセクシュアルでシスジェンダー (出生児に割り振られた性別と性自認が一致する状態) であることのみを正常とする支配的な社会規範に抗議し、その変革を求めるトランスジェンダーやその他の性的マイノリティの運動が、アメリカをはじめ各国で展開されていくことになる。そうした運動は、法律や制度の改革を要求するのみでなく、アカデミズムの世界にも影響を及ぼした。アメリカの大学ではゲイ・レズビアン研究やクィア研究のプログラムが導入されていき、

*かねこ・あゆむ／明治大学 政治経済学部 専任講師

文学や歴史学など既存の学問もまたクィアの視点を組み込んだ研究を推進するようになった。1970年代以前には、既存の学問分野は性的マイノリティの存在を無視するか、あるいはその存在を認識する際には「病理」としてのみ扱うのが常であった。今日であれば性的マイノリティとカテゴライズされる人びとは、常に人類の歴史を生きてきた存在であった。しかし歴史学は、長らくその存在を不可視化するか、特殊な逸脱的存在として言及するのみであった。だが今日の歴史学は、そうした人びとの存在を発掘し、かれらの思想や行動を明らかにし、そしてかれらを不可視化・周縁化・排除してきた社会のあり方そのものの歴史を批判的に問い直す作業に取り組んでいる。その研究蓄積も、現在では相当な質・量を誇るにいたっている⁽¹⁾。

2021年に明治大学図書館が購入したセンゲージ社の史料集“Archives of Sexuality and Gender”は、クィア研究、とりわけ歴史学的な研究にとって極めて重要な一次史料群を電子化した史料集である。全体は4つのパートに分かれているが、今回購入されたのはPart 1, 2, 4である。

Part 1 および Part 2 “LGBTQ History and Culture since 1940”は、アメリカ合衆国を中心として、第二次世界大戦から20世紀後半にかけてのLGBTQによる運動組織等の貴重史料を集成したものである。その多くは、サンフランシスコのGLBT歴史協会（GLBT Historical Society）およびロスアンジェルス以南カリフォルニア大学図書館附属 ONE 全国ゲイ・レズビアン史料館（ONE National Gay and Lesbian Archives）に所蔵されている貴重な一次史料の複写である。

アメリカでは、ストーンウォール反乱よりも20年ほどさかのぼる第二次大戦後に登場したいわゆるホモファイル運動（Homophile Movement）が、同性愛者の権利を主張する組織的な運動として歴史上はじめてであると考えられている。1950年にロスアンジェルスで結成された「マタシン協

(1) クィア史研究の蓄積を反映した通史として、Michael Bronsky, *A Queer History of the United States* (New York, 2011); Lillian Federman, *The Gay Revolution: The Story of the Struggle* (New York, 2016); Susan Stryker, *Transgender History: The Roots of Today's Revolution*, revised edition (New York, 2017) など。

会 (the Mattachine Society)」はその代表的団体である⁽²⁾。本史料集は、マタシン協会ニューヨーク支部の史料や、マタシン協会から分派したレズビアンのためのホモファイル運動団体「ビリティスの娘たち (the Daughters of Bilitis)」を創設したデル・マーティン (Del Martin) とフィリス・ライオン (Phyllis Lyon) の個人文書など、ストーンウォール以前の性的マイノリティ権利運動を知るために必須の一次史料が多く収録されている。また、ゲイ活動家同盟 (Gay Activist Alliance) など、ゲイ・レズビアン解放運動以後のLGBTQ運動の系譜を理解する上で重要な団体の史料も含まれる。そして、解放運動が衰退した後の1980年代~90年代に再活性化する性的マイノリティ運動を代表する、エイズ・アクティヴィズム関連史料が充実している。エイズ・アクティヴィズムの歴史学的研究は最近本格化しているが⁽³⁾、このテーマのさらなる発展にとって不可欠な一次史料がPart 1 および2には多数収録されている。

Part 4 “International Perspectives on LGBTQ Activism and Culture”は、アメリカ合衆国以外のLGBTQ運動に関する史料を収録している。特に、南アフリカ共和国のLGBTQ団体「行動するゲイとレズビアンの記憶 (Gay and Lesbian Memory in Action: GALA)」が精力的に収集した同国のLGBTQ活動家たちが遺した一次史料を豊富に揃えている。また、オーストラリアのクィア運動に関する史料も含まれている。こうした史料は、北米に偏りがちなクィア・ヒストリー研究を世界に開き、北米のLGBTQ運動と他国の運動のあいだの交流や相互の影響関係などを明らかにし、クィア・グローバル・ヒストリーを叙述する上で不可欠のものになるだろう。

(2) ホモファイル運動に関する古典的研究として、John D’Emilio, *Sexual Politics, Sexual Communities: The Making of a Homosexual Minority in the United States, 1940-1970* (Chicago, 1998)。ホモファイル運動が米国のみならずカナダや西欧の同様の運動と連携し相互に影響しあうものであったことを、以下の研究が詳細に論じている。David S. Churchill, “Transnationalism and Homophile Political Culture in the Postwar Decades,” *GLQ: A Journal of Lesbian and Gay Studies* 15-1 (2009): 31-65。

(3) 代表的なものとして、Deborah B. Gould, *Moving Politics: Emotion and ACT UP’s Fight Against AIDS* (Chicago, 2009); Sarah Shulman, *Let the Record Show: A Political History of ACT UP New York, 1987-1993* (New York, 2021)。

これらの史料は、LGBTQ 当事者の運動史やかれらの歴史的経験を明らかにするために必須であるが、それだけでなく、クィア視点を通じて主流社会の政治・経済・社会・文化の歴史的なありようを批判的に再検討する上でも、高い価値を有している。つまり、“Archives of Sexuality and Gender”は、過去と現在をより深く知ることを望むすべての人びとにとって、不可欠の史料集なのである。幅広い人びとに、この史料集が活用されることを願ってやまない。